

未来を育てたい。

ケアリングフォーザフューチャーファンデーションジャパン(C F F)設立15年目に。

特定非営利活動法人

ケアリングフォーザフューチャーファンデーションジャパン



■ 気づいて築く

C F Fが誕生して、15年が経ちました。

二子石と学生たちの「フィリピンの子どもたちのために何かしたい」という思いからはじまったこの活動は、次へ次へと受け継がれ、子どもたちや青年たちが育ちあう機会を創り、広めてきました。

あるフィリピンの子どもは、自分のからだの洗い方も、ご飯の食べ方も、他の人との話し方も、何も知らずに「子どもの家」にやってきました。しかし、たくさんのお兄ちゃんお姉ちゃんと歌を唄ったり、ダンスをしたりして、自分を表現することができるようになりました。また、学校に通って家族として愛されて育つうちに、自分の夢に向かうようになりました。

ある日本の青年は、自分に自信がなく未来も見えませんでした。仲間と関わりあう中で、自分の役割、自分ができることに気づき、心の内から湧く大きな力を得ました。また別の青年は、離れて暮らしていても家族を愛して生きる「子どもの家」の子どもたちと出会い、自分のための人生から、他者や社会のための人生へと生き方が変わりました。

わたしたちC F Fは「なにかしたい」という想いで訪れた途上国で、逆にたくさん“価値”を学び、たくさん笑顔から希望をもらいました。そして、共に生きること、分かち合うこと、その喜びによって活動を築いてきました。

また、日本はかつて世界の国々・人々との関係を壊してしまいましたが、わたしたちはそのことから逃げずに、受け止め、未来のために学ぼうとしてきました。そして、「子どもの家」を現地の人々と共に築いてきたことが、その壊してしまった関係を少しずつ築き直すことにつながってきたのです。

■ 15年を経て、今

しかし、この世界にはまだまだ多くの悲しみがあります。

家族と暮らせない子、路上で物乞いをする子、働かなければならない子、虐待を受けている子、国籍が得られない子、そんな子どもたちがいます。

未来への希望はなく、人としての権利が守られないばかりか、命すら危ぶまれることもあります。また、例え生きることができてもその子が生まれ持った可能性や能力を発揮できないことも少なくありません。

そして、残念ながら日本にはこうした状況を知らない人たち、知っていても行動しない、できない人たちが多くいるのも現実です。

厳しい状況に置かれた子どもたち、日本で「裕福に」暮らすわたしたち。本当にそれで良いのでしょうか。

■わたしたちが変わらず行っていききたいこと

次の15年、わたしたちは、これまでの活動で得た確かな価値を大切にし、常に世界にある多くの悲しみと向き合い、自他への問いかけを持ちながら、活動を創り、広げ、つなげていきます。

わたしたちは、たくさんの人の想いがつまった「子どもの家」で、子どもたちが愛を受け取り、愛を与え、これからも安心して暮らしていけるよう支えています。そして、ひとりでも多くの子どもが社会の中で自立していけるように、ともに生きていきます。

わたしたちは、これからも青年たちが、自分と向き合い、自分の生き方や世界のあり方を真剣に考えるきっかけを創っていきます。そして、多くの青年が社会の課題に目を向け、自ら行動していくことでよりよい社会や世界が変わっていく、そんな変化を起こしていきます。

これらのことを大切にし、現状の活動を維持することにとどめず、常に新しい世代とともに新しい可能性を求めて、より豊かな世界を目指していきます。

"Caring for the Future Foundation"

未来を語り続け、未来のための基盤を創り続けること、それが次の15年もわたしたちが変わらず行っていききたいこと。

どうか世界中の誰もが心の中に持っている「平和な未来を築きたい」というひそやかな声に、一人ひとりが耳を傾けてそれに気づくことができますように。それを他者と分かち合いながらよりよい明日を創っていきましょう。

どうか、次の世代の子どもたちが、安心して生まれてこられますように。世界中のすべての人たちがともに光の中を歩んでいけますように。

特定非営利活動法人 ケアリングフォーザフューチャーファンデーションジャパン
活動趣意書
2011年

15th aniv. Caring for the Future Foundation Japan

どこにしようとも、自分が生きている現場から、
決意をもってこの活動に参画する。

